

第5学年 国語科学習指導案

1. 単元 学習したことを生かして
「大造じいさんとガン」 関連教材「千年の釘にいどむ」

2. 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、これまでに「新しい友達」「わらぐつの中の神様」の学習を通して、読みのめあてに沿って人物の気持ちやものの見方・考え方及びその変化、生き方を人物の言動と関係づけながら読み取る学習をしてきている。「サクラソウとトラマルハナバチ」「千年の釘にいどむ」では、読みのめあてに沿って文章構成に着目しながら内容を短く要約したり、要旨につながる文章を自分が読み取ったことをもとに敷衍したりすることを通して、筆者の伝えたいことを読み取る学習をしてきている。その中で、子どもたちは、根拠とする言葉をはっきりさせて、解釈をしながら読み取ることができるようになってきている。また、文章構成に気を付けながら、言葉をたどり結んで読み取ることや、既習の読み方を生かして自ら言葉や文章に問いかけて読むことも少しずつできるようになってきている。

しかし、読みの能力における個人差が大きく、個別指導を必要とする子どもの姿も見られる。また、自分一人の力では部分的な読みで終わってしまう子どももおり、文章構成を的確にとらえ作者や筆者の伝えたいことを自力で読みまとめることは、まだ十分できていない。

「関連づけて読む」活動については、「千年の釘にいどむ」の学習において、職人としての意地と誇りをもって釘づくりにいどむ白鷹さんと伝記や本の主人公を比べて読み、それぞれの考えを交流することによって、「いどむ」ということに対する自分の見方・考え方を広げたり深めたり、自分を振り返って考えたりすることができた。また、「わらぐつの中の神様」の学習においては、同じ作者の「春先のヒョウ」と重ねて読み、読み取った人物のものの見方・考え方や生き方について考えたり、「幸せ」に対する自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができてきている。

○ 教材の価値・特質

教科書教材は、大造じいさんとガンの頭領である残雪との知恵の限りを尽くした戦いを通して、残雪の頭領らしい態度に感動し、かりゅうどとしての誇りをかけて堂々と戦いたいライバルとして認めるようになった、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を描いた物語である。

文章構成の特質としては、前書きと4つの場面から構成されており、前書きには、作者が「わたし」として登場し、読み手を物語の世界に誘い込む役割を果たしている。また、その後の4つの場面には、大造じいさんと残雪の戦いが起承転結の形で展開され、その展開を追う中で、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を思い描けるようになっている。

文章表現の特質としては、呼称の変化を表す言葉の工夫、強調表現や文末表現の工夫があり、類義語や指示語の使い分けなどが巧みで、子どもたちに言葉の読み方を身に付けさせるのに適した教材であるといえる。

関連教材は、6月に学習した説明文「千年の釘にいどむ」である。物語と説明文、架空の人物と実在の人物という違いはあるが、かりゅうどとしての誇りをもち残雪と堂々と戦おうとしている大造じいさんの姿と、かじ職人としての意地と誇りをもち釘づくりにいどむ白鷹さんの姿は非常に重なるものがある。また、この教材は一度学習しているため、どの子どももすぐに想起したり読み返したりすることができる。この2つの教材を関連づけて読むことで、職人のものの見方・考え方、生き方を考えることができるとともに、実際に会うことができない古代や未来の職人たちをライバルとして釘づくりにいどんでいる白鷹さんの生き方により一層迫ることができる。このことは、自分のものの見方・考え方を広げたり深めたり、自分のこれからの生き方について考えたりすることにつながり、非常に意義がある教材である。

○ 指導にあたって

読みのめあて

題名の中の助詞「と」から大造じいさんとガンの関係に問題意識を持たせた後、前書きを読んでいく。前書きに作者が「わたし」として登場していることに着目させることで、大造じいさんとガンの関係に作者の伝えたいことが込められていることを確認し、両者の関係を追求する読みのめあてを生み出す。

予見

まず、大まかな文章構成と展開をとらえる。次に、文章全体が大造じいさんの視点から書かれていることに着目させ、根拠をはっきりさせながら、作者が伝えたい大造じいさんと残雪の関係を自分の予見に書きまとめるようにする。その後、予見を交流する中で重なりや違いを明らかにし、学級の予見を方向付ける。

学習計画

場面ごとに大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどりながら、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめること、さらに、どの叙述を中心に確かめるのかを全体で確認し、読み確かめる計画を立てる。

読み深め・確かめ

大造じいさんと残雪の関係を読み確かめるために、場面ごとに、呼称の変化を表す言葉や強調表現、文末表現、類義語、指示語などを手がかりに、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み確かめていく。

読み・読み方のまとめ

これまでの読みを振り返り、前書きの役割に着目した読み方や呼称の変化に着目した読み方などについてまとめるとともに、題名と前書きにもどって、作者が伝えたかったことについてまとめる。また、「いどむ」という言葉をもとに、関連教材「千年の釘にいどむ」につなぐ。

「関連づけて読む」活動

大造じいさんと千年はもつ釘づくりにいどむ白鷹さんの姿、ものの見方・考え方を、「ライバル」をキーワードに「関連づけて読む」活動を通して、二人のものの見方・考え方や生き方の共通点を読み取ることができるようにする。そして、キーワードを手がかりにして既習の作品を読み直し、新たな共通点に気付く読み方を身に付けたり、自分の考えやものの見方・考え方を見直したり、自分のこれからの生き方について考えたりすることができるようにする。

3. 単元の目標

- 残雪の頭領らしい態度に感動し、人間と鳥という立場の違いをこえて、かりゅうどとしての誇りをかけて堂々と戦おうとするライバルとして認めるようになった、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み取ることができる。
- 前書きの役割に着目し、文章構成に気を付けながら、呼称の変化を表す言葉や強調表現、文末表現、類義語、指示語を手がかりとして、人物の見方や気持ちの変化を読む読み方や、キーワードを手がかりにして既習の作品を読み直し、新たな共通点に気付く読み方を身に付けることができる。
- 大造じいさんのかりゅうどとしての姿、見方・考え方と「千年の釘にいどむ」白鷹さんのかじ職人としての姿、見方・考え方を「関連づけて読む」ことによって、二人のものの見方・考え方や生き方について考えたり、自分のこれからの生き方について考えたりすることができるようにする。

4. 学習計画（全16時間）

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点 (◎基礎基本の重点、※「関連づけて読む」活動に関して)
読みのめあて	1	1 単元名から学習の構えをつくる。	○ 今までの学習で学んだ言葉や文章の読み方を生かして読む構えをつくる。 ○ 題名の「と」の働くと、作者が「わたし」として登場し、「～を書いてみました。」「～をお読みください。」と述べている意図に着目させ、ごんぎつねの語り手を想起させながら、読みのめあてをつくらせる。
		2 題名について話し合う。 3 題名の読みとつないで前書きを読む。 4 題名の読みと前書きの読みをつないで読みのめあてを生み出す。	
		〔読みのめあて〕 作者は、大造じいさんとガンのどんな関係を伝えたいのだろう。	
予見	2	1 教師の範読を聞く。 2 音読の練習をする。	○ 難語句については補説しながら範読する。 ○ 家庭学習や朝のタイムにも継続する。

予見	3	文章構成と展開をとらえる。 4 自分の考えの根拠をはっきりさせて、予見を書きまとめる。 5 友達の予見と比べながら話し合い、重なりや違いを明らかにして、予見を方向付ける。	○ 構成と展開がとらえやすい板書をする。 ○ 自分の考えの根拠とした叙述とその解釈、自分の考えを書きまとめさせる。 ○ 予見の違いや曖昧さ、解決できない疑問は残し、学習計画へとつなぐ。
	<p>[予見の方向]</p> <p>作者は、大造じいさんと残雪が、人間と鳥、かりゅうどとえものという立場の違いをこえて、堂々と戦うライバルのような関係であることを伝えたい。</p>		
学習計画	4	1 何を読み深め・確かめるのか確認し、全文を読み返して、場面ごとに中心文を探す。	○ 文章全体が大造じいさんの視点から書かれていることに着目させ、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み深め、両者の関係を読み確かめていくことを確認する。 ○ どの叙述を中心に読み深め・確かめるのか全体で確認し、学習計画に位置付けておく。
	<p>[学習計画]</p> <p>○ 大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面1…「ううむ。」大造じいさんは、思わず感嘆の声をもらしてしまいました。 ・ 場面2… 大造じいさんは、～「うん。」と、うなっていました。 ・ 場面3… 大造じいさんは、強く心を打たれて、～気がしませんでした。 ・ 場面4…「～おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」～見守っていました。 		
読み深め・確かめ	5	1 中心文を基に、自分の考えを書きまとめる。	○ 根拠となる叙述をはっきりさせ、その解釈と自分の考えを書きまとめるよう助言する。
	6	2 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。 ○ 思わず感嘆の声をもらしてしまっただ造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめること 3 学習して読み確かめられたことと読み方を書きまとめる。 ○ 本時学習を振り返り、自分の読みや読み方の深まりを自覚すること	◎ 「いまいまして思っていました。」「たかが鳥」「『ううむ。』」「思わず感嘆の声をもらしてしまいました。」などの叙述を、つないで読んだり、似た言葉と比べて読んだりすることで、いまいましいと思いつつ残雪のことをたいした知恵をもっている鳥だと認めている大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み取らせる。 ○ 子どもたちの考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。 ○ 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。
<p>大造じいさんは残雪のことを「たかが鳥」と言っているの、まだ残雪を見くびっていた。しかし、大丈夫だと思っていたウナギつりばり作戦を見破られ、いまいましい相手ではあるが、たいした知恵をもっている鳥だと認めた。それは、「思わず」「もらして」「しまいました」という言葉から、認めたくなかった大造じいさんの気持ちが分かるし、「感嘆の声」からすごいと認めている大造じいさんの気持ちが分かるから。 でも、まだかりゅうどとえものとの関係で、大造じいさんにはまだ余裕が感じられる。</p>			
読み深め・確かめ	7	1 中心文を基に、自分の考えを書きまとめる。	○ 根拠となる叙述をはっきりさせ、その解釈と自分の考えを書きまとめるよう助言する。
	8	2 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。 ○ 広いぬま地の向こうをじっと見つめ	◎ まず、「夏のうちから心がけて」「タニシを五俵ばかり」「四、五日も続いた」「夜の間～小屋を作って」などの叙述を1の場面の作戦にかけた日数や手間と比べたり、「しめた

読 み 深 め	<p>たまま、「ううん。」と、うなってしまった大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめること</p> <p>3 学習して読み確かめられたことと読み方を書きまとめる。 ○ 本時学習を振り返り、自分の読みや読み方の深まりを自覚すること</p>	<p>ぞ。」「今年こそは、目にもの見せてくれるぞ。」「りょうじゅうをぐっとにぎりしめ」などの叙述をつないだりすることで、2の場面のタニシばらまき作戦にかける大造じいさんの意気込みと自信を読み取らせる。次に、「ところが～またしても、残雪のためにしてしてやられてしまいました。」「大造じいさんは～『ううん。』と、うなっていました。』とつなぎ、1の場面の「もらして」と比べることで、余裕がなくなってきた大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を読み取らせる。</p> <p>○ 子どもたちの考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。</p> <p>○ 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、それぞれの考えで読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。</p>
	<p>大造じいさんは、昨年の失敗をもとに作戦を練り直し、1の場面より時間と労力をかけて準備したタニシばらまき作戦に自信があった。しかし、またしても残雪に見破られ、大造じいさんは困ってしまった。1の場面の「ううむ。」「～もらしてしまいました。」と比べて「ううん。」「うなっていました。』では大造じいさんに余裕がなくなって困っていることがよく分かる。大造じいさんは、残雪をまだえものとして見ているので、二人の関係はまだかりゅうどとえもの関係といえる。</p>	
確 か め	<p>9 1 中心文を基に、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>10 2 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。 ○ 強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめること</p> <p>3 学習して読み確かめられたことと読み方を書きまとめる。 ○ 本時学習を振り返り、自分の読みや読み方の深まりを自覚すること</p>	<p>○ 根拠となる叙述をはっきりさせ、その解釈と自分の考えを書きまとめるよう助言する。</p> <p>◎ 「二年前」「このガンを手に入れたときから」「昨年建てた小屋」などの叙述や、「うまくいくぞ」「戦闘開始」「今日こそは、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」という会話を讀んだり、「青くすんだ空」「東の空が真っ赤に燃えて」という情景を讀んだりすることで、3の場面のおとり作戦にかける大造じいさんの意気込みと自信を読み取らせる。次に、頭領にふさわしい残雪の姿と「じゅうを下ろしてしまいました」「強く心を打たれて、～気がしませんでした」という叙述をつなぎ、1の場面の「たかが鳥」と比べて読むことで、鳥以上の存在としてとらえるようになった大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み取らせる。</p> <p>○ 子どもたちの考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。</p> <p>○ 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。</p>
	<p>大造じいさんは、「今年こそは必ずガンをとる」、「残雪に思い知らせてやる」という強い思いでしようにいどんだが、頭領らしい残雪の姿に強く心を打たれ、残雪をただの鳥・えものでなくそれ以上の存在として感じるようになった。「ただの鳥に対してのような気がしなかった」ということは、ただの鳥ではない、すごい鳥、鳥以上の存在ということになるから。ここでは、もう、かりゅうどとえもの関係ではなくなっている。</p>	
11	<p>1 中心文を基に、自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>○ 根拠となる叙述をはっきりさせ、その解釈と自分の考えを書きまとめるよう助言する。</p>

読み深め・確かめ	12	<p>2 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。</p> <p>○ いつまでもいつまでも見守っていた大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめること</p> <p>3 学習して読み確かめられたことと読み方を書きまとめる。</p> <p>○ 本時学習を振り返り、自分の読みや読み方の深まりを自覚すること</p>	<p>◎ 「ガンの英雄よ」「えらぶつ」と「たかが鳥」を比べて読んだり、「ひきょうなやり方で～」「おれたちは、また堂々と～」という会話を読んだりすることで、残雪をただの鳥・えものとしてではなく、対等なよきライバルとしてとらえるようになった大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取らせる。そして、「いつまでも、いつまでも」という繰り返しを読んだり、「見守って」と「見て」を比べて読んだりすることで、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を読み取らせる。</p> <p>○ 子どもたちの考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。</p> <p>○ 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、それぞれの考えで読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。</p>
	<p>大造じいさんは、残雪のことを「ガンの英雄」と言ったり「おれたち」と言ったりしているので、残雪のことをただの鳥・えものでなく、対等なよきライバルとしてとらえるようになった。そして、「いつまでも、いつまでも」見守ったり、ガンに呼びかけたりしているところから、また残雪と堂々と戦いたいと思い、残雪のことを心配したり、ガンとの次の戦いを楽しみにしたりしながら見守っている大造じいさんの気持ちが分かった。かりゅうどとえもの、人間と鳥という立場をこえた、ライバルのような関係。</p>		
読み・読み方のまとめ	13	<p>1 読み方のまとめをする。</p> <p>○ 前書きの役割に着目して読む</p> <p>○ 呼称の変化を読む</p> <p>○ 類義語を読む</p> <p>○ 指示語を読む 他</p> <p>2 読み深め・確かめてきたことを振り返り、読みのまとめをする。</p>	<p>◎ 学習の足跡を残した掲示物を使いながら、言葉や文章の読み方を振り返り、「読み方の種」とつないで、今後の読みの学習の中で使うことができるようにする。</p> <p>○ 題名と前書きにもどって、作者が伝えたかったことについてまとめる。</p> <p>※ 大造じいさんのものの見方・考え方についての自分の感想を書きまとめる。</p> <p>※ かりゅうどとしてこれから続く「ガン」との戦いを「いどむ」という言葉に置き換えて、関連教材「千年の釘にいどむ」につなぐ。</p>
関連づけ	14	<p>1 関連教材「千年の釘にいどむ」を読み返し、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>○ 「千年の釘にいどむ」を読み返し、白鷹さんにとってのライバルと、そう考えたわけを書きまとめること</p> <p>15</p> <p>2 書きまとめたものをもとに、白鷹さんのライバルについて話し合う。</p> <p>○ 大造じいさんと白鷹さん二人に共通するものの見方・考え方や生き方を読み取ること</p> <p>3 自分の知識や経験を振り返り、学習後の自分の考え・感想を書きまとめる。</p> <p>○ 友達の見方・考え方のよさや、自分のものの見方・考え方、読み方の深まりを自覚すること</p>	<p>※ 「ライバル」をキーワードに「千年の釘にいどむ」を読み返し、白鷹さんにとってのライバルは誰か、そしてなぜライバルといえるのかを書きまとめる。</p> <p>※ 常に自分の考えと比べながら話し合うことで、いろいろな友達の感じ方・考え方にふれ、二人に共通する見方・考え方や生き方をもとに自分の考えやものの見方・考え方を見直すことができるようにする。</p> <p>※ 第13時や第14時でまとめた自分の考えと比べることで、自分の見方・考え方の変容を自覚できるようにする。</p> <p>○ 自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができたことを賞賛する。</p>
読み	<p>実際に会えない人を釘を通してライバルとしてみている白鷹さんはすごいなと思った。そして、自分の仕事に誇りを持ち、ライバルに負けぬように努力し続けている二人の考え方や生き方はいいなと思った。北島選手とハンセン選手は、お互いをライバルと思っているからこそ、苦しくてもがんばれたんじゃないかなと思った。</p>		

第5学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (12 / 15) 基礎・基本

6. 本時の目標

- 仲間のために命をかけて戦った残雪のことを、よきライバルとして認めるようになった大造じいさんの見方の変化と、残雪との今後の戦いを期待したり、残雪の行く末を案じたりしている大造じいさんの気持ちを読み深め、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめることができる。
- 残雪に対する呼び方の変化を1の場面からたどり、4の場面で「ガンの英雄」や「えらぶつ」と変わっていることから、大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読む読み方、「いつまでも、いつまでも」という繰り返しを読んだり、「見守って」を「見る」や「見送って」と比べて読んだりして大造じいさんの気持ちの変化を読む読み方を身に付けることができる。

7. 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、各場面ごとに大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み取り、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめてきている。その中で、呼称の変化を表す言葉や強調表現、文末表現を手がかりにしながら読むことを経験している。

本時は、前時での書き込みをもとにして、飛び去っていく残雪をいつまでも、いつまでも見守っている、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を読み深め、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる学習である。

そのために、まず、3の場面までを通して大造じいさんと残雪との関係をどう読み取ってきたかについて振り返り、本時学習の見通しをもつことができるようにする。そして、4の場面までを通して大造じいさんと残雪の関係がどう変わってきたのか、代表児の考えを聞く。その際、代表児の発表をもとに自分との共通点や相違点を考えながら話し合いを進めることを確認する。そして、それぞれの考えを付け加えていく中で、大造じいさんがガンに呼びかけている会話を中心にして、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を話し合う。ここでは、会話文中「ガンの英雄」や「えらぶつ」「おれたち」という言葉に目を向けさせ、1～3の場面までの呼称「たかが鳥」「残雪め」と比べることで、えものとして見ていた残雪を、次第に対等な立場、よきライバルとして見るようになってきていることをとらえられるようにする。また、いつまでもいつまでも残雪の様子を見守っている大造じいさんの姿から、残雪に対する大造じいさんの気持ちを話し合う。この話し合いを通して、「いつまでも、いつまでも」という繰り返しの言葉に着目したり、「見守って」という言葉と「見て」や「見送って」という言葉と比べたりして読むことで、大造じいさんの残雪に対する心配や、今後の狩りに対する意気込み、これまでの戦いでの感動といった気持ちの変化をとらえられるようにする。次に、これまでの話し合いをもとにしながら、1の場面から4の場面までの見方や気持ちの変化に着目させ、大造じいさんと残雪の関係がどのように変化してきたのか話し合う。最後に、本時を通して自分の考えがどのように変わったのか、また、何を読み確かめることができたのかを書きまとめ、発表させる。発表の際は、まず代表児に発表させ意見交流する中で、自分の読みがどのように確かめられたのかを実感できるようにする。また、本時で学習した呼称の変化を読んだり、似た言葉と比べたりして読む読み方について読み方の種とつないでまとめ、今後の学習でも活用できるようにする。

8. 板書計画

<p>学習のまとめ</p> <p>大造じいさんと残雪は、人間と鳥という立場をこえライバルのような関係になった。</p>	<p>はじめは「えらぶつ」と呼んでいて、大造じいさんが、残雪を心配したり、今後の対戦を期待したりして、仲間のような関係になってきている。</p> <p>残雪に対する呼び方が、えものに対しての呼び方から、対等な立場のような呼び方に変わって、お互いに認め合うライバルのような関係になった。</p> <p>残雪に対する呼び方や気持ちが変わってきて、よきライバルのような関係になった。</p>	<p>「おうい、ガンの英雄よ。認めている。ただの鳥という気がしない。おまえみたいなえらぶつを、おとり作戦。おれはひきようなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ。おい。今年、冬も、仲間を連れてぬま地にやっつて来いよ。おれたちは、また堂々と戦おうじやあないか。」</p> <p>対等な立場として</p> <p>ライバルのように感じている</p> <p>大造じいさんは、大きな声でガンによびかけました。そうして、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。心配、意気込み、感動</p> <p>残雪が見えなくなるまでいつまでもいつまでも、見守っていました。</p> <p>似た言葉と比べて読む</p>	<p>学習のめあて</p> <p>大造じいさんとガン 椋鳩十 作</p> <p>学習のめあて</p> <p>いつまでも、いつまでも残雪を見守っている大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちを読み取り、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめよう。</p> <p>1 ぐいぐいしく思っていました。ガンの頭領らしいなかなかりこうなやつ。たかが鳥。えものじい鳥</p> <p>2 大造じいさんは思わず感たんの声をもらしてしまいました。大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじつと見つめたまま、「うらん」とうなっていました。呼称の変化を読む</p> <p>3 強く心を打たれて、いかに頭領らしい堂々たる態度。仲間のために命をかける姿。ただの鳥に対しては、うなげしませんでした。</p> <p>4 「おうい、ガンの英雄よ。認めている。ただの鳥という気がしない。おまえみたいなえらぶつを、おとり作戦。おれはひきようなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ。おい。今年、冬も、仲間を連れてぬま地にやっつて来いよ。おれたちは、また堂々と戦おうじやあないか。」</p>
---	--	---	---

9. 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点 (◎基礎・基本の重点)
<p>1 本時学習のめあてを確認する。 (1) 本時学習の見通しをもつ。 ○ 3の場面までの内容と読み方を振り返り、本時学習の見通しをもつこと 〈学習のめあて〉</p>	<p>○ 前時までの掲示物を用いてこれまでの学習の内容を振り返り、本時学習の見通しをもたせる。</p>
<p>いつまでも、いつまでも残雪を見守っている大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちを読み取り、残雪と大造じいさんの関係を読み確かめよう。</p>	
<p>(2) 4の場面を音読する。 ○ 音読をして、本時学習の中心となる会話文や叙述を意識すること</p> <p>2 大造じいさんと残雪の関係の変化を話し合う。 (1) 代表児の発表を聞く。 ・ 呼称の変化から関係の変化をとらえている読み ・ 気持ちを表す叙述から関係の変化をとらえている読み (2) 会話文や叙述から大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化について話し合う。 ○ 「ガンの英雄」「えらぶつ」「おれたち」という呼称の変化を読むことによって、大造じいさんの残雪に対する見方の変化をとらえること ・ ただの鳥に対する呼び方ではなくなってきた。 ・ 対等な立場と考えるようになってきていると思う。 ○ 「いつまでも、いつまでも」から、どれ位の時間なのかを想像し、長い時間見守っていたことをとらえること ○ 「見る」や「見送る」と比べて読むことで、大造じいさんの残雪に対する気持ちを読み深めること ・ 残雪のことを心配している。 ・ 来年の戦いを楽しみにしている。 (3) 大造じいさんと残雪の関係の変化を話し合う。 ○ 見方や気持ちの変化から、大造じいさんと残雪の関係がライバルのようになったことをとらえること</p> <p>3 本時学習を振り返って、まとめる。 (1) 話し合いを振り返り、大造じいさんの残雪に対する見方や思いの変化、読み確かめられた大造じいさんと残雪の関係について書きまとめて、話し合う。</p>	<p>○ 大造じいさんの気持ちや見方が分かる叙述に気を付けながら音読させ、次の学習活動につなげる。</p> <p>○ 代表児にこれまでの掲示物や板書を用いて自分の読みを発表させ、読みの違いや表現の違いから話し合いを進めることを確認する。 ○ 子どもたちがどのように読んでいるかということ事前に学習プリントから把握し、列指名や意図的な指名を行い、子どもたちの読みを生かす。 ◎ 残雪の呼び方が「なかなかりこうなやつ」から「ガンの英雄」「えらぶつ」に変わったことや「おれたち」と言っていることに着目させることで、大造じいさんが残雪をよきライバルとして見るようになったことをとらえるようにする。 ◎ 「いつまでも、いつまでも」という繰り返しの言葉を読んだり、「見守って」と「見て」や「見送って」などと比べて読んだりして、大造じいさんの気持ちを読み深めるようにする。</p> <p>○ 本時の話し合いを通して、自分の考えがどう深まったかを代表児に発表させる。</p>
<p>大造じいさんは、残雪のことをはじめは「たかが鳥」と見下していたが、次第に頭領として認めるようになり、最後には「ガンの英雄」と言うまでに見直しながら、それでも友達に向かって言うように「おれたち」と呼んでいた。そして、「いつまでも、いつまでも」残雪のことを見守っていることから、大造じいさんと残雪は、人間と鳥という立場をこえたライバルのような関係になった。</p>	
<p>(2) 本時で学んだ読み方をまとめる。 ○ 呼称の変化を読む ○ 繰り返しを読む ○ 似た言葉と比べて読む</p>	<p>◎ 本時で使った読み方を「読み方の種」として確かめ、今後の学習で活用できるようにする。</p>

第5学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (15 / 15) 関連づけて読む

6. 本時の目標

- 「ライバル」をキーワードにし、かりゅうどである大造じいさんとかじ職人である白鷹さん二人に共通するものの見方・考え方や生き方を読み取り、自分の知識や経験へと広げながら自分のこれからの生き方について考えることができるようにする。
- キーワードを手がかりにして既習の作品を読み直し、新たな共通点に気付く読み方を身に付けることができる。

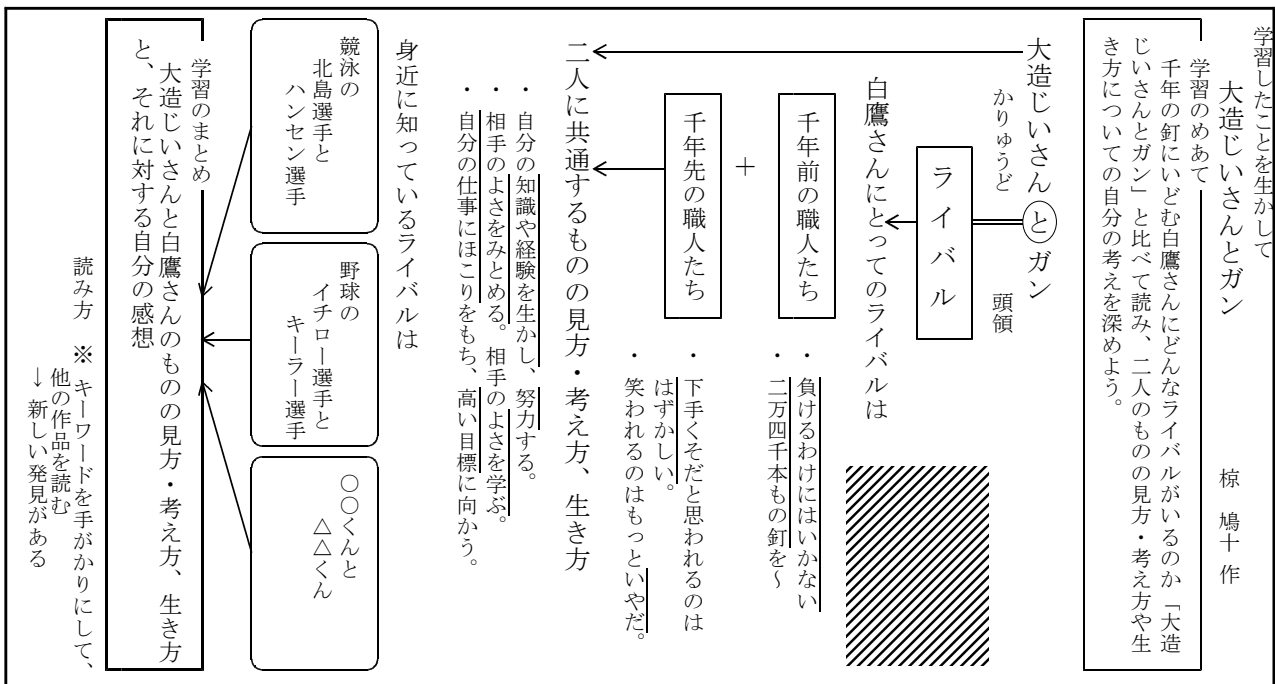
7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、千年の釘にいどむ白鷹さんにも大造じいさんにとっての残雪のようなライバルがいるのか、「ライバル」をキーワードにして「千年の釘にいどむ」を読み返し、白鷹さんにとってのライバルは誰か、そしてなぜライバルといえるのか、自分の考えを書きまとめている。

本時は、それぞれが書きまとめたものを交流し、白鷹さんのライバルについて話し合う中で、かりゅうどである大造じいさんとかじ職人である白鷹さんの二人に共通するものの見方・考え方や生き方を読み取り、自分の知識や経験へと広げながら自分のこれからの生き方について考えることができるようにする学習である。

そこで、まず、今までの学習を振り返り、本時学習のめあてを確認する。次に、白鷹さんにとってのライバルは誰か、その根拠とした叙述を挙げながら話し合い、かりゅうどである大造じいさんとかじ職人である白鷹さん二人に共通するものの見方・考え方や生き方を読み取っていく。このときに、まず、白鷹さんにとってのライバルは誰か問い、「千年前の職人たち」と「千年先の職人たち」という2つの考えを出させる。その後、挙手によって自分の立場をはっきりさせ、なぜライバルといえるのか問い返し、話し合いに入る。ここでは、友達のと自分の考えを比べて聞き、それぞれの考えのよさを共通理解していくことで、自分の考えに付け加えたり、自分の考えを修正したりすることができるようにする。そして、自分の知識や経験を振り返り、身近にある「ライバル関係」を見つけて話し合うことで、自分の考えをより確かなものにし、自分の将来について考えることができるようにする。また、前時までの自分の考えやものの見方・考え方を振り返る時間を設定し、本時学習でそれらを広げたり深めたりすることができたことを自覚することができるようにする。最後に、大造じいさんや白鷹さん、自分が知っている人々のものの見方・考え方、生き方をどう思うか問いかけ、本時学習で学んだことを書きまとめさせる。そして、これからの自分の言動などにふれて書いている子どもの考えを紹介し、交流させることによって、自分のこれからの生き方についても考えることができるようにする。

8. 板書計画



9. 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点 (※「関連づけて読む」活動に関して)
1 本時学習のめあてを確認する。 ○ 本時学習のめあてと見通しをもつこと 〈学習のめあて〉	○ 前時までの掲示物を用いて今までの学習を振り返り、本時学習のめあてと本時学習の見通しをもたせる。
千年の釘にいどむ白鷹さんにどんなライバルがいるのか、「大造じいさんとガン」と比べて読み、二人のものの見方・考え方や生き方についての自分の考えを深めよう。	
2 白鷹さんにとってのライバルについて話し合う。 ○ 白鷹さんにとってのライバルについて話し合い、かりゅうどである大造じいさんとかじ職人である白鷹さん二人に共通するものの見方・考え方や生き方を読み取ること <ul style="list-style-type: none"> ・ 千年前の職人たち ・ 千年後の職人たち 	※ 白鷹さんにとって「千年前の職人たち」「千年先の職人たち」が本当にライバルであるといえるのか、自分の考えの根拠とした叙述を挙げ、「大造じいさんとガン」と比べながら発表するよう助言する。 ○ 友達の考えを聞くときは、自分の考えと比べながら聞き、問い返したり、自分の意見を述べたりするよう助言する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 白鷹さんにとって、千年前の職人たちがライバルだと思います。教科書P56の6行目を見てください。「この職人たちに、負けるわけにはいかないのだ。」と書いてありますね。この職人たちというのは、千年前のかじ職人たちのことです。白鷹さんは、千年前のかじ職人たちに負けられないという思いで、よりよい釘を作るために2万4千本の釘を作っていました。大造じいさんが残雪のことを認めているように、白鷹さんも千年前の職人たちを認めているので、ライバルだと思います。 ・ 白鷹さんにとって、千年前の職人たちもライバルだと思うけれど、千年後の職人たちもライバルだと思います。白鷹さんの会話を聞いてください。とてもすごいことをしているのに自慢せず、やさしい話し方をしています。でも、「笑われるのはもったいやだ。」のところだけ強い言い方になっています。それだけ笑われたくないと思っていることだと思うので、やはり千年後の職人もライバルだと思います。 	
3 自分が知っているライバル関係について話し合う。 ○ 自分の知識や経験とつないで考え、自分の考えや自分のものの見方・考え方を見直したり、その広がりや深まりを自覚したりすること 4 本時学習を振り返って、まとめる。 (1) 自分の考えを書きまとめる。 ○ 友達の見方・考え方のよさや、自分のものの見方・考え方の深まりを自覚すること	※ 自分の身近にある「ライバル関係」を見つけ、誰と誰がなぜライバルといえるのか話し合うことで、自分の考えをより確かなものにし、自分の将来について考えさせる。 ○ 子どもたちが想起しやすいように北京オリンピックの新聞などを準備しておく。 ※ 前時まで書きまとめた自分の考えを読み直す時間をとり、本時学習で自分の考えやものの見方・考え方を広げたり深めたりすることができたことを自覚させる。 ※ 自分のこれからの生き方にまでふれて書いている子どもを紹介し、交流させる。
実際に会えない人を釘を通してライバルとしてみている白鷹さんはすごいなと思いました。そして、自分の仕事にほこりを持ち、ライバルに負けないように努力し続けている大造じいさんや白鷹さんの考え方や生き方はいいなと思いました。北島選手とハンセン選手は、お互いをライバルと思っているからこそ、苦しくてもがんばれたんじゃないかなと思いました。自分も～	
(2) 本時で学んだ読み方をまとめる。 ○ キーワードを手がかりにして他の作品を読む読み方 → 新たな発見がある } 人物のものの見方 共通点が見つかる } ・考え方、生き方	○ 板書をもとに、本時で学んだ読み方とともに、物語の主人公からも、ものの見方・考え方や生き方を学ぶことができることも確認する。